外国語科「コミュニケーション英語Ⅰ」授業実践紹介

授業者：浮田 圭一郎

学　年：１年普通科

単元名：自分の頭に描いていることを、英語を用いて相手に全力で伝えてみよう

本時のねらい

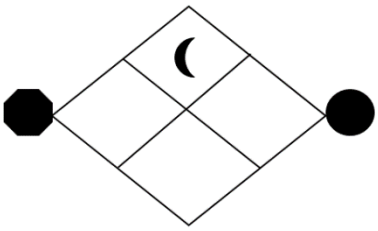
① 相手に伝える上で、重要かつ便利なフレーズや単語をインプットし、自分の思っていることを伝えようとする態度を身につける。

② 話し手は、聞き手がイメージしやすいように論理立てて話せる方法を身につける。

③ 聞き手は話し手が伝えようとしている言葉を、しっかりと聞く態度を身につける。

授業（単元）の流れ　［１場面×１時間］×３場面＝計３時間

（１時間目）ある図や写真を見て、何の図か、何をしている場面なのか自分の言葉で描写し、相手に伝えてみる。



（１時間目中盤）図や写真を描写するのに重要となる単語やフレーズを覚え、使いこなせるようインプットする。

（１時間目後半）もう一度、最初に見た図や写真をもとにその場面を描写してみる。

（２～３時間目）テレビコマーシャルなど短い動画を見て、ペアでストーリーを英語で言い合ってみる。

授業のルーブリック

表現方法（使用語彙、文法、語法）	5 点 が適切であり、誤りがほとんどない。	4 点 がほぼ適切であるが、小さな誤りが若干ある。	3 点 に誤りがあるが、誤解を生じるほどの大きな誤りはない。	2 点 に誤りがあり、意見の伝達に支障をきたす点が多い。
表現方法（発音、リズム、正しい強勢、イントネーション、区切り）	5 点 を用いて、明瞭に流暢に話すことができる。	4 点 を用いて、ほぼ明瞭に流暢に話すことができる。	3 点 あまり明瞭、流暢ではないが、誤解を生じるほどの大きな誤りはない。	2 点 明瞭、流暢ではなく、誤りがあり、自分の意見の伝達に支障をきたす点が多い。
述べるべき内容として、自分の意見とその理由・説明	5 点 が詳しく述べられ、情報量が多く、随所に工夫が見られる。適切な表現方法でわかりやすく伝えている。	4 点 を述べることができる。ほぼ適切な表現方法で述べている。	3 点 を述べているが、最小限の情報に留まる。表現方法にやや誤りが見られるが、誤解を生じる大きな誤りではない。	2 点 がない。または説明になっていない。表現方法にやや誤りがあり、情報が乏しいなど、よく理解できない。

単元を通して身につけてほしいこと

このグローバル時代に英語を使って、自分の伝えたいことを相手に伝える力を身につけていないと、国際社会を生き抜いていくのは大変です。片言でも良いのでまずは話そうとする態度を身につけ、その上で必要な単語やフレーズを身につければ、確実に相手に伝えたいことは伝わりやすくなります。その成功した体験を増やしていくことで、自分自身に自信を持ち、英語を話すことが楽しいという気持ちになります。今までのような教科書を読んで訳すような授業ではなく、ゲーム感覚で取り組む活動などで、積極性を身につけてほしいと思います。

実践の背景

■落ち着いた雰囲気の中で生徒たちは学習している。教科書を音読する際は元気に声を出して読むことができる等，活動の際は積極的に参加し，英語への関心・意欲は比較的高いようである。しかし一方で，基本的な語彙や文法が身に付いておらず，英語に苦手意識を抱いている生徒も多いように思われる。単語を見て，その意味は分かっても，綴りが書けない単語が多いとか、特に英語を書く、話すことに難しさを感じている生徒が多いようである。

授業改善のアプローチ

■英語で話すことを苦手としている生徒が，話すことに慣れ，話す力の基礎をはぐくむことができる授業を行いたい。従来，高校における英語の授業は訳読式であった。文法や内容理解に関する教師の説明が中心となり，生徒の活動の時間は限られたものになる。その結果，習得すべき内容が定着していない段階で，新たな内容が提示され，生徒は消化不良を起こしている。読解力養成の内容理解中心の授業では，話す力を養成する時間は不足する。

■今回の大まかな授業の流れは①発話活動②内容理解③Story Reproduction である。内容を理解した英文の発話を数多くすることで，語句や構文の定着を高めたい。また，キーワードやキーセンテンスをヒントとして与えたワークシートを用い，思ったことを英語で話す活動(Story Reproduction)を行うことで更なる定着を図り，話すことへの抵抗感をなくし，話す力の基礎をはぐくみたい。説明を極力少なくし，活動を多く取り入れることで，英語に興味関心をもたせ，楽しい雰囲気の中で学ばせ，生徒中心の授業を心掛けたい。

単元のヤマ場となる授業場面

単元の構成

■英語を読む・書くというスキルももちろん大切であるが、一番に身につけるべき力は発話によって自分の思っていることを相手に伝える力である。正しい文法よりも、多少間違っていても相手に自分の思っていることを伝えようとする態度が大事である。

■生徒が話したくなるようなひきつける写真や動画を盛り込んでいる。生徒は非日常的な写真や図などに興味を示し、面白いストーリー展開ができるようにする。

■アクティビティはすべて制限時間を設け、ある一定の時間内でどれだけ相手に自分の考えや思いを伝えられるかという設定にしている。その時間的な重圧や伝える難しさを体感した後、重要単語やフレーズを教え込むことで生徒は自らの発話を改善するために理解しようする。直後に同じアクティビティを行うことで、自らの言いたいことが言えるようになったという成功体験をすることができる。

パフォーマンス課題

人や動物など何かの活動している写真を見て、その情景を３０秒間でストーリーを立てて、３０秒間英語で説明する。学んだ単語やフレーズを用いるとともに、発音、イントネーション等にも気を配ること。

①ルーブリックを意識し１０点以上を取る。

②これまでの授業の成果も踏まえて、間違いを恐れず、積極的に話す。

評価

次の３点で今学期の評価とした。

①パフォーマンス課題に対する評価（３０％）

②毎授業の振り返りシート＋その他の課題＋小テスト（２０％）

③定期考査による評価（５０％）